

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	放課後なかよしクラブ				公表日 2025年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	広々と遊べる空間を確保している。広すぎるから、遊びによって使用する空間を調整している	こどもたちにも使える部屋、使えない部屋がわかりやすくなるように、目で見てわかる情報の掲示等を行っていきます。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	基準以上の職員数を配置しているので、子供の状態に合わせた丁寧な対応ができる	職員とばかり遊びないように、子供同士の関係が深まる働きかけを意識して取り組んでいます。継続して職員間の意思統一を図り、子ども同士の繋がりを育んでいきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	玩具や道具が片付けしやすいように構造化をしている。段差がなく、スロープや身障者用のトイレ、点字ブロックの設置など、施設はバリアフリー化されている。	視覚情報の掲示をもっと工夫していく必要があり、日常的に掲示するスケジュールの情報に不十分な面があるなど、見直しが必要な箇所がありました。そのため、こどもたちにわかりやすい情報掲示を行うよう見直しを行っていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日掃除をしている。利用児の来所前に活動空間の安全確認等を行なっている。	継続して清潔で安心して過ごせる環境を維持していきます。またこどもたちにも清潔な空間を維持する意識をもつてもらえるように働きかけを行っていきます。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	部屋数も多く、状況に応じて使用している。クールダウンに使用する部屋は刺激が少なく危険がないように調整している	以前、クールダウンする環境に片づけられない玩具等があり刺激となってしまうことがあったので、現在は片付けを徹底し刺激の少ない環境作りに努めています。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	終礼や会議等で全体で課題を共有し改善に向けた話し合いを行なっている。うまくいった事例について、なぜうまくいったのかを振り返ることで再現性を高めていくように取り組んだ。	引き続き終礼等での意見交換をもとに業務改善や支援の質の向上に努めています。改善策を実行した後の評価ができていなかったことがあるため、期間を決めてしっかりと評価していくように取り組んでいきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	アンケートを実施し、頂いた意見を共有し業務改善に繋げている	引き続きアンケートの結果を参考に、サービスや支援の質の向上に努めています。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	終礼や会議等で業務改善に向けた意見交換をしている。月に1回の職員会議や主任以上が集まって業務改善に向けた話し合いを行っている	改善に向けた取り組みについて、振り返りを行えていなかったことがありました。そのため改善策を決めた後は、評価期間を決めて改善策についての評価を行うよう見直しを行っていきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	地域の通所事業所に自己評価を見てもらい第三者からの評価をいただく予定にしている。	自己評価の結果を地域の通所事業所にも確認をしてもらい、第三者の意見を参考に業務改善に繋げていきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	外部の研修や内部での研修を行なっている。	もっと事例検討会などを行なっていき、意見交換をしながら深く考察する機会を作っています。
支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	60%	40%	作成はされているが、まだ公表がされていない。	法人内の事業所と方向性をすり合わせ、共通理解のうえで支援を行なっていけるように、内容の見直しを随時行なっています。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	保護者様とは面談を行い、困りや意向を確認しつつ支援の方向性について確認をするようにしている。利用をしている様子を見て、好きな遊びや興味関心を持っていることを参考に、支援に反映させるようにしている	ご家庭での様子や学校等の状況を丁寧に聞き取りさせていただきながら、寄せられた意見等も参考に支援計画書の作成に努めています。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	終礼等の時間に支援の成果や課題について現場からの意見を拾い上げができるようにしている。現場からの声を反映した計画作成を心がけている	現場の意見交換を積極的に行い、その内容を深掘りすることによって、意見の質を向上させ、それに伴い計画書の質も高めています。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	終礼や会議等で計画書に基づいた支援の方向性を職員間で把握して支援に臨んでいる。	ICT等を活用しながら、作成された計画書がいつでも確認できるように工夫を行なっています。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	80%	20%	訓練の記録や検査結果の数値を参考に支援を行っている	日々の行動観察等の情報を丁寧に残すため、発達支援ファイルやライフサポートブック等を活用し情報の整理を行なっています。

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	5領域に無理に課題を当て込むのではなく、一つの課題に対し、どの領域に関係しているのか、重複している部分はないか考えながら計画作成を行っている。	様々な研修会に参加をして児童発達支援管理責任者の5領域に関する知識を一層高めていきます。また職員も5領域に関する勉強会等を行い、全体で理解を深め共通理解のもと支援に取り組んでいくよう努めてまいります。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	職員間で月毎に活動プログラムを話し合い、決定している。	行事等の関係で、話し合いが十分にできていない月があったので、スケジュールを決めて計画的に行なっていきます。また書面に残せていない月だったので、必ず書面に残すよう仕組みを整えていきます。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	子供が能動的に取り組めるように、活動決めの話し合いを子供達と行なっている。一つの遊びにもバリエーションを持たせ、遊びが発展するように工夫をしている。	話し合いで良い活動案があつても、実際に実行できていない活動もあったので、子どもたちとスケジュールを考えながら様々な活動に取り組んでいきます。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	状態に合わせて個別対応を行なっているが、基本的には全体で他者を意識しながら友好的な人間関係が築けるように支援を行なっている。	子ども同士の関係性に着目し、関係性を軸に課題解決に向けたアプローチをしていく取り組みは成果が見られてきているので、今後は個別支援の必要度が高い児童に対する支援力を一層強化する必要があります。計画書と連動させながら個別活動の質を高めていくようチームで取り組んでいきます。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	支援に入る前に子供の状態の共有をしている。子供達の関係性を見ながら、その日の支援の方向性を共有し取り組むことができている。	打ち合わせをしても職員間での情報認識のズレが生じていることがあるので、口頭だけではなく書面で確認できるように工夫をしていきます。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	終礼で振り返りを行なっている。支援者側の働きかけや支援の意図について振り返りを行い、よかった点、改善点などを深掘りしている。	話し合いの時間が長くなり過ぎるため、要点を絞った話ができるよう支援者の力量と専門性を一層高めていく必要があります。経験のある職員がスーパーバイズを積極的に行い、質の向上に努めています。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	必要に応じて動画を撮り、支援の振り返りに活用している。	今後も支援の振り返りに活用し、支援の質を高めるとともに計画書の見直しにも活用していきます。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的にモニタリングを行い、必要に応じて地域への移行を勧めたり、成長に合わせた利用回数を話し合って決めたりしている。半年毎に見直しを行い、家庭や学校等の様子を踏まえた計画の見直しを行っている。	引き続き保護者様や子どもの声、学校等で過ごす様子など総合的に情報を集め、成長段階に合わせた計画の見直しに努めています。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	80%	20%	地域交流の活動以外は個別及び小集団の中で子ども同士の仲間意識を高めていきながら取り組みを行なっている。	子どもや保護者のニーズに耳を傾けながら地域との交流について検討し活動に取り入れています。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	ルールを決める際には話し合いに子どもたちも参加をしてもらい、子どもたちの意見を含めたルール設定を行っている。活動内容も子どもたちと話し合って決める機会を作り、自分たちで決めた活動に取り組めるようにしている。	子どもたち一人一人の意思を丁寧に拾い上げ、支援や活動に反映させていく取り組みを今後も継続していきます。
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者に加え、現場に携わっている職員を同席させている。職員の経験値や専門性を高める機会になっている。	児童発達支援管理責任者がスーパーバイズを行なながら、会議等の出席を通じて職員の専門性や資質向上を図ると共に、子どもの状況をしっかりと伝えているよう取り組んでまいります。
関係機関や	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	何かあれば連絡の取り合える関係性が地域でできている。学校だけでなく、教育委員会とも繋がりを持って連携して対応できている。気になることがあれば、担任の先生やコーディネーターの先生に確認の連絡をしている。	引き続き学校や地域関係諸機関との連携に努めるとともに、移行支援に向けた児童クラブ等との関係を深めていけるように情報交換を積極的に行っていきます。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	下校時間の確認がとりやすい関係を地域の学校と作ることができている。	今後とも学校との連携を深め、何かあればいつでも連絡を取り合える関係性を発展させていきます。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	就学前の様子やどのような支援、配慮が行われていたのかを必ず確認をするようにしている。必要に応じて会議等にも出席している。	子どもや保護者に安心して利用していただけるように、児童発達支援や保育所等との情報共有に努めています。

保護者との連携	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	移行に向けた会議に出席し情報提供を行なっている。	事業所、相談支援専門員と連携し、保護者とも相談をしながら丁寧な移行支援を継続して行なっていきます。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	児童発達支援センターや地域の関係機関と連携したり、助け合ったりしながら、こどもたちにより良い支援が提供できるように努力している。	引き続き児童発達支援や地域の通所支援事業所等と連携したり情報交換を行なうながら専門性を高め合っていく関係を深めていきます。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	40%	60%	児童クラブに通いながら放課後デイを利用している児童が多い。なるべく児童クラブの利用も勧めている。	児童クラブとの情報共有の機会を増やしていくながら、こどもや保護者のニーズに合わせた交流機会を検討していきます。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	自立支援協議会児童部会に参加をしている。部会で決まった取り組みに	引き続き協議会に出席し、地域課題について関係者と協議を行なっていきます。
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	コドモンを使った情報の伝達を行なっている。状況に合わせて電話をして詳しく状況を伝えたり、送迎時に情報交換をしたりしている。	送迎時やコドモンを活用した保護者様との情報伝達を今後も密に行なっていくながら、こどもに関する理解を深めていきます。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	40%	60%	個別に声掛けを行なっていることはあるが、全体への声掛けが不十分だった	ペアレン特プログラムについて保護者に情報提供を行なったり、参加を促すような声掛けを行なっていきます。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	利用開始前に必ず説明を行なっている。事業所で提供できるサービスや支援の特徴について説明を行なっている。	わかりやすい説明を心掛けながら、不明な点があればいつでも説明できるように努めています。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	保護者様には面談時に支援の方向性や希望を確認するようにしている。こどもたちには遊びを中心にどのようなニーズがあるか探ったり、高学年になれば本人が抱える悩みや困りを中心に、なかよしく取り組んでいくことを本人と話す機会を作っている。	引き続き保護者様やこどもたちの声に耳を傾けながらより良い支援の提供に努めてまいります。うまく気持ちが伝えられないこどもたちもいますので、普段からのコミュニケーションを密にしながら内面に抱く思いを拾い上げていくように心掛けています。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	モニタリングを行い、保護者様からの聞き取りや関係機関での様子等を踏まえて計画を作成し、計画の内容を確認してもらっている	保護者様への説明を行なうとともに、関係機関にも支援の方向性について説明し連携した支援を行なっていきます。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	保護者様から相談があった際には、児発管に相談したり、チームで対応について話し合い、保護者様へ助言等を行なっています。	職員の専門性を高め、ご家族からのご相談にしっかりと応えていくことで、子育てに関する悩みなどが軽減していくよう努めています。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	80%	20%	行事にはきょうだいも参加できるように案内をしている。行事の際には保護者連絡会を開催するようにしている。	保護者同士が交流する機会を増やすことを目的とした行事の見直しを行なっていきます。また自立支援協議会等で保護者同士の繋がりを作る機会について協議を行なっています。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	保護者から要望や苦情等があった場合には児発管、管理者に報告をして対応を行なっている。	引き続き、保護者様からのお問い合わせや相談があった場合には、管理者への報告及びチームで情報共有を行い、迅速な対応を心掛けています。
保護者への説明等	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	なかよしだよりを定期的に発行し情報発信を行なっている。コドモンを使って行事予定のお知らせをしている。	コドモン（ICT）を活用した情報発信等を継続して行なっていくと共に、保護者様にもコドモンの活用方法について伝えていくようにしていきます。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	配布物など、個人情報を含む書類を配布する際は二重チェックを行なっている。鍵のかかる棚等に書類を保管している	引き続き二重チェック等の確認を徹底し個人情報の保護や適切な取り扱いを心がけていきます。
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	iPadを使って動画を見せながら説明をするなど、状況に応じて対応している。コドモンを使った情報伝達を行なっている	iPad等を引き続き活用する。他のコミュニケーションツールの活用については、他事業所の取り組みも参考にしていきます。
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	60%	40%	隣接する子育て支援センターに園庭を開放するなど、地域の子育て世帯との交流機会を設けている	コロナ期間を境に地域との交流が少なくなってしまいました。来年度の行事や活動を企画する際に地域との交流を意識したものを取り入れていくよう検討していきます。（地域のイベントの参加なども含めて考えています）
	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	60%	40%	マニュアルを作成し、職員に配布をしている。計画を立てて訓練を実施している。	各種マニュアルを保護者が見てもわかりやすくするために見直しを行なっています。できたものはコドモンでいつでも閲覧できるようにしていきます。

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	災害備蓄品を準備している。研修、訓練を行なっている。	訓練の質を高めていくために、他の事業所などの取り組みも参考にしていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	服薬等の状況について、面談等で確認を行なっている。また年度毎に調査票を配布し状況確認を行なっている。	情報としては集約しているが、よりわかりやすく情報をまとめるためにライフサポートブックを活用し、アレルギーや服薬、医療の情報などの整理を行なっています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	アレルギーのあるお子さんについては、医師の指示書に基づく対応を行なっている。定期的にアレルギーの有無の確認を行なっている。	引き続きアレルギーについての情報を定期的に確認しながら、情報を整理しチームで共有を行なっています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を作成している。計画に基づく訓練を実施している。	訓練の内容について、振り返りが十分にできていないため、振り返りをしっかりと行い訓練の質を高めています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	安全計画に基づく訓練等を実施した際には保護者に報告を行なっている。安全計画は掲示し保護者が見られるようにしている。	周知の仕方について、わかりやすくまとめたものを作り、コドモンを使って保護者様に周知を行なっています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	報告書を作成し、全体周知を行なっている。危険な場面があった時には、必要に応じて会議を行ったり、場面を再現したりして共通理解を図りながら再発防止策を検討している。	再発防止策を実行後、取り組みの成果を評価する話し合いが十分に持てていなかったので、期間を決めて取り組みの評価を行うようにしています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	研修を実施している。振り返りの際には、自分たちの支援に落ち度はなかったかという視点を持って話し合いを行い、反省点を踏まえた支援を行なっている	自らの支援を振り返り、反省点があれば真摯に受け止め支援の質を向上させていく姿勢を職員の共通認識として継続して取り組んでまいります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束は原則行わないことを徹底して支援を行なっている。身体拘束が必要な状況は発生しておらず、また必要な状況が起きないように職員間で意思疎通を図りながら支援を行なっている。	引き続き子どもたちが安心して過ごせる空間、仲間作りの支援を行なうことで、肯定的な感情を育てていくサポートを行なっています。